

# 序

埋蔵文化財調査センター長

五味 武臣

2001年度の3・4合併号に引き続き、センターの2002年度活動報告、センター職員の調査研究の成果、学外からの研究論文を内容とした「金沢大学文化財学研究」5号を刊行します。

当センターは1997年に学内共同利用施設として発足し、全学のご協力、ご支援、ご理解をいただきながら金沢大学角間キャンパス（Ⅱ期移転用地）、宝町キャンパス（医学部附属病院）、鶴間キャンパス、東兼六キャンパスなどにおいて調査研究を実施してきました。各キャンパスでの発掘によって、原始・古代から中・近世、近現代にわたる遺構・歴大な量の遺物（文化財）を得ましたが、さらに新たな発掘調査も予定されています。

当センターの文化財調査はこの発掘調査をもって完了したわけではありません。今後、これら出土した文化財の復元・整理分類、実測図作成、写真撮影、原稿執筆など報告書作成と遺構・遺物の保存・活用方策をたてるといった重要な業務が残されています。この業務を鋭意遂行中ですが、近年の社会情勢の急激な変化によって、調査研究にあたるセンター教官の削減、運営経費の節減など厳しい状況にあります。

本号には、今年度センターが実施した発掘調査の結果を中心に調査研究の成果を掲載しています。本紀要には調査研究中の遺跡についての報告を今後も掲載していく計画です。

本紀要が金沢大学における文化財に対する理解を深めるとともに、地域に対する情報発信・地域貢献の一助となることを期待いたします。